

放送教育だより

平成 25 年 3 月 31 日発行 全通研放送教育研究委員会

◆地区通研より

○東北・北海道地区

期 日：平成 24 年 10 月 25 日（木）・26 日（金）

会 場：札幌ガーデンパレス

協議内容：研究協議の内容としては、平成 23、24 年度の研究委嘱校である北海道友朋高等学校の田渕宏司先生による 2 年間の研究報告が中心でした。北海道有朋高校では、この研究を始めるにあたり、1 年目には NHK 高校講座をスクーリングで利用してのアンケート調査や、調査結果に基づいて、番組活用の利点と課題を整理を行いました。さらに 2 年目には、高校講座以外の視聴覚教材の利用、高校講座の番組がない科目での教材開発として、自作での自作コンテンツの作成、公開を行いました。コンテンツ作成のポイントとしては、新教育課程での各教科・科目の報告課題の内容も視野に入れ、各教科からの実際に人の動きや動画などで具体的に見せた方が学習者の理解を助けるものと思われる内容を抽出して作成したという報告がなされました。詳細については、平成 25 年度の全通研大会で報告ということになりますが、質の高い研究で、本番での発表が期待できる内容でした。

研究協議以外にも、加盟校から出された質問事項等について、積極的な意見交換がなせました。その内容としては、積極的に放送視聴に取り組んでいる学校が未だ少なく、放送視聴を行っていないあるいは積極的に利用していない学校が多い点、高校講座の番組がない科目での放送利用、特別支援が必要な生徒に対する放送視聴の利用やそれによるスクーリングの代替えについてなどの意見交換が積極的に行われ、実り多い 2 日間でした。

埼玉県立大宮中央高等学校 小林裕光

○関東地区

期 日：9 月 21 日

会 場：ポートプラザ千葉

主 管 校：文理開成高等学校

発 表 者：①山梨県立中央高等学校 教諭 堀井浩二、②駿台甲府高等学校 部長代理 小宮山修

指導助言者：早稲田大学人間科学学術院 准教授 森田祐介

テ ー マ：①本校における放送教育の取り組みと課題、②スクーリング映像の配信

発表内容：①放送教育に取り組んだ当初は、校内でも決してスムーズに受け入れられたわけではないが、平成 21 年度よりすべての教科での実施にこぎつけた。「放送教育学習ガイダンス」では、主に新入生を対象に、5-6 月に、「NHK 高校講座オリエンテーション」を視聴させ、説明を行い、特別活動 1 時間の認定を行っている。中央高校は、平成 25 年度に新校舎が完成し、定時制 3 部と通信制の 4 課程の新たな学校に生まれ変わる。現在実施している放送教育を通信制の特色として引き続き行えるよう、全校で取り組んでいきたい。

②駿台甲府高校は、甲府市にあり、通信制課程は平成 12 年に開設された。スクーリングは 4 日間集中型を複数回実施、レポートは、紙媒体で手書きのみ。放送視聴レポートは、NHK 番組視聴を単位認定に必須条件としている。

研究発表の後、指導助言者の森田先生のファシリテーションにより、「ジグソー法」によるグループ討議を行い、非常に良い雰囲気の中で、交流が行われた。

千葉県立千葉大宮高等学校 下山浩一

○中部地区

期日：9 月 20 日（木）・21 日（金）

会場：A O S S A（福井市地域交流プラザ）

○石川県立金沢泉ヶ丘高等学校

教諭：塚本久夫「本校における放送視聴の取り組みについて～NHK 高校講座を中心に～」

生徒の放送視聴との関わり方は 2 つ。①NHK 高校講座などを家庭その他で視聴することによる学習補助。②放送視聴によるスクーリング時数の免除（代替）。後者について、制度としては定着しているが、今回改めて考察した。考察にあたり、過去 3 年分の放送視聴によるスクーリング時数代替の状況や、放送視聴に対する生徒の意識調査、放送視聴に対する教職員の考え方の調査の結果報告があった。

生徒の意識調査からは、NHK 高校講座の視聴の目的として、「わかりやすい」、「興味があるから」、「教養を高めるため」など、スクーリング時数の免除ではなく、学習の補助として捉えている生徒が一定程度いることが確認できた。また、NHK 高校講座の内容に関する質問については、「興味を持てなかった」とする生徒が、一人もいなかった。教職員の調査では、スクーリング時数の代替について大きく 2 つの方向に分かれた。一つは現状どおり、もう一つは今より厳しくするものであった。NHK 高校講座のスクーリング時数の代替とは別の利用法についても、大きく 2 つにまとめた報告があった。一つは学習内容の理解の補助、もう一つはスクーリング時の活用であった。

NHK 学園高等学校 渡部儀隆

○近畿地区

期 日：9 月 28 日

発 表 者：天王寺学館高等学校 教諭 森 直子 テーマ：「単位修得における視聴覚教材の活用について」

発表内容：天王寺学館高校では、「通信」「通学」「視聴メディア」の 3 つに分かれたコース制をとっており、このうちの「視聴メディアコース」は、精神的または身体的理由によって「通信」「通学」コースで登校できない生徒を対象に、月 1 回程度の面接指導と NHK 高校講座の視聴により学習を進めていくとのこと。

本地区通研ではこのコースを中心に、対象とする生徒、面接指導の実施方法（①「通信コース」の授業、②教科担当による個別指導、③メディアコース生の為の特別授業）、視聴報告書の書式・提出方法等について詳しく説明があった。

その後、各参加者から発表内容に対して、「視聴代替による減免はメディアコースのみ可か？」「視聴報告の評価はどうしているか？」「個別指導はどう行っているのか？スクーリングにカウントされるのか？」等の質疑応答が行われた。自校で課題を抱えている参加者が多かったためか、意見交換、情報交換も含め活発かつ真剣なやり取りが行われた。多くの学校が視聴代替の在り方について模索している中、コース制を取り入れての実践報告はとても興味深いものであった。

神奈川県立横浜修悠館高等学校 岩瀬博文

○中国地区

期日：10 月 9 日（火）～10 月 10 日（水）

会場：島根県立宍道高等学校 主管校：島根県立宍道高等学校

放送教育について 5 校により情報交換が行なわれた。

鳥取県立鳥取緑風高校と島根県立浜田高校は新設されて間もないので、これからの放送教育の位置づけ、放送視聴用設備の充実をどのようにはかるかが課題であり、今後積極的な活用の検討段階であるとの報告があった。

島根県立宍道高校では、現在、スクーリング時に放送視聴を生徒に知らせるためオリエンテーションを行っている。また放送教育のしおりを作り、生徒に配布しているとの報告があった。さらに宍道高校からは、放送視聴はスクーリングの代替であるが、授業でできないところを映像で見ることができ、理科などで自然科学の興味関心が高まるという利点がある。是非とも授業の中でやりたいという意見もあった。

また、放送教育には年度末の駆け込み視聴のようなマイナス面もある一方、隠岐高校の地区などで、スクーリングに出席しづらい遠隔地の生徒には教育的であるとの報告があった。

聖光高校では、今年度のスクーリングでベーシック数学を活用する指導を行なったが、参加者は 1 人であった。先生が授業をしたいということで、放送教育はあまり利用されていないのが現状であるが、不登校対策や基礎学力の向上に高校講座の番組が活用できると指摘された。

山口県立山口高校では、理科と英語のみが代替を認めている。番組を 2 回分視聴して 1 回出席としている。放送視聴による面接代替は、日曜に仕事が入っている生徒が利用している。視聴票を文章でまとめるのは、生徒には難しいようで、それがかえって生徒の学力向上につながるという報告があった。

通信制課程では、生徒の自律性をいかに伸ばすかがポイントであるが、そのために放送教育をいかに活用するかが今後の課題となろう。今回、各高校の先生方がこの点を十分に話し合い、放送教育の意義を改めて認識できて、非常に有意義な情報交換となった。

神奈川県立厚木清南高等学校 中澤邦治

○四国地区

期日：7 月 6 日（金）

会場：香川県立高松高等学校

発 表 者：今治精高等学校 教諭 坂東 諭 テーマ：「本校における効果的な放送利用の促進について」

内 容：今治精高等学校では、必要面接時数の減免として放送教育を利用している。遠隔地の生徒・不登校傾向の生徒が中心になっているが、学力や学習習慣の定着・自宅における学習を支援する教材として活用する方法を模索している。研究発表の後、参加 9 校により、「各校の現状と課題」について、資料を元に活発な情報交換・意見交換が行われた。

千葉県立千葉大宮高等学校 下山浩一